

## 学校教育目標



# 須和田が丘

夢 に向かっていく生徒  
命 を大切に作る生徒  
絆 を互いに深め合う生徒

令和4年度  
学校だより No. 27  
令和4年10月6日

市川市立第二中学校  
校長 石田 清彦

ホームページ <http://www.dai2-tyu.ichikawa-school.ed.jp/>

## 自由進度学習について 2

自由進度学習について、学校の考えを記載させていただきます。

自由進度学習は、授業の進度を学習者自ら自由に決められる自己調整学習の一つの方法です。

昨年度の学校だより No.34 に詳細を記載しましたが、授業時間のはじめに生徒が「めあて」を記入し、計画内容に沿って学習を進めていきます。教材や学習進度はそれぞれに任されています。分からないことは教員に質問したり、友達と協力して教え合ったりして、学んだことや考えたことを授業の最後に振り返り、計画表に記入します。これを繰り返すことにより、自分の学び方がつかめてくるのです。

学校だより No.24 で記載しましたように、学習指導要領が改訂され、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す教育の充実に努めることが示されました。

また、令和3年度の中教審答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」では、生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるように指導することの重要性が指摘されています。

自己調整しながら学習を進めるとは、学習者が自分自身の学習活動に能動的に関わり、自分の立てた目標を達成するために、学習に対する意欲や学習方法を自ら観察、調整しながら、効果的に学習を進めることです。そして、「予測困難な時代」を生きる子供たちにこそ必要な学習方法です。

私たち学校は、新型コロナウイルス感染症の広がりによって、全国一斉に学校が休校となったときに、学校からの課題がなければ学習することができない多くの児童生徒を前にして、大きな危機感を抱きました。そして全国的に、子供一人一人が自立した学習者として学び続けていけるようになっていくのか、ということが焦点化され、その改善が重要な課題となっているのです。

また、同じ答申では、自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう、「個に応じた指導」を充実することが必要であると言っています。「個に応じた指導」とは、「子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと」などであり、その方向性を具現化しているものが、「自由進度学習」です。

しかし、学校評価の自由記述では、多くのご意見をいただき、「授業をしていない」というご意見もありました。確かに今までの「授業」の概念とは違う授業方法なので、そのように捉えられるかもしれませんが、自己調整学習では、これまでの一斉授業と教員の役割が違います。

教員は生徒一人一人の学習履歴を確認して、何ができるようになっているのか、また、どこで躓いているのかといったことを把握し、個に応じた指導につなげるようにしています。実際には、毎日200人ほどの「めあて」と「振り返り」を確認し、生徒一人一人の学習状況や努力している点、伸びている点などを見とり、授業の中で確認しています。そして必要に応じて声をかけたり、質問に答えたりしているのです。また、提出されたノートにコメントを書き加えたり、問題の答えを採点したり、さらには、確実な習得を図るために幾度も再テストをしたり、学び直しや個別指導が図られるように、週2回の補習教室を実施するなどして、自由進度学習の全体をつくっているのです。その労力は、これまでの一斉授業に比べて、3倍では効かないのではないのでしょうか。それでも、個に応じた指導の充実と自己調整しながら学ぶ力の育成を、これからの重要課題と捉えて実施しているのです。

しかし、そのような取組でも、生徒の実態に合っていなければ、理念の実現には至りません。そこで生徒の実態を見る指標として実力テストを取り上げ、その結果を分析して、今後の自由進度学習の方向を検討することとしました。なお、本校の自由進度学習は、昨年度の導入時から、市川市教育委員会と情報を共有し、今年の夏からは、県教育委員会の指導主事も含めて、学校、市教委、県教委で勉強会を開き、より良い方向を目指して協議を進めているところです。

昨年度の学校だよりでも「生徒の実態によってもその成果は変わってきます。取組を検証し、今後のより良い方策へとつなげていきたいと考えています。」と記載しています。

自由進度学習の今後の方向、改善策について、次号でご説明いたします。